

食をめぐる現状と課題

1 高槻市の概要

(1) 立地条件

高槻市は、大阪平野の北東にあって、京都市と大阪市の間に位置しています。北は北摂山地に連なる山並みと丘陵、南は山間から流れ出る芥川・檜尾川などによって形成された平野が広がり、琵琶湖から大阪湾に流れる淀川が市域の南の境になっています。

市の総面積の半分以上を森林と農地で占める自然豊かな地域となっています。

また、古くは西国街道、淀川の水運、明治に至って現在のJR、昭和以降は国道171号や阪急電鉄などの幹線交通網が整備され、様々な食材が流通する環境となっています。

図 高槻市の位置

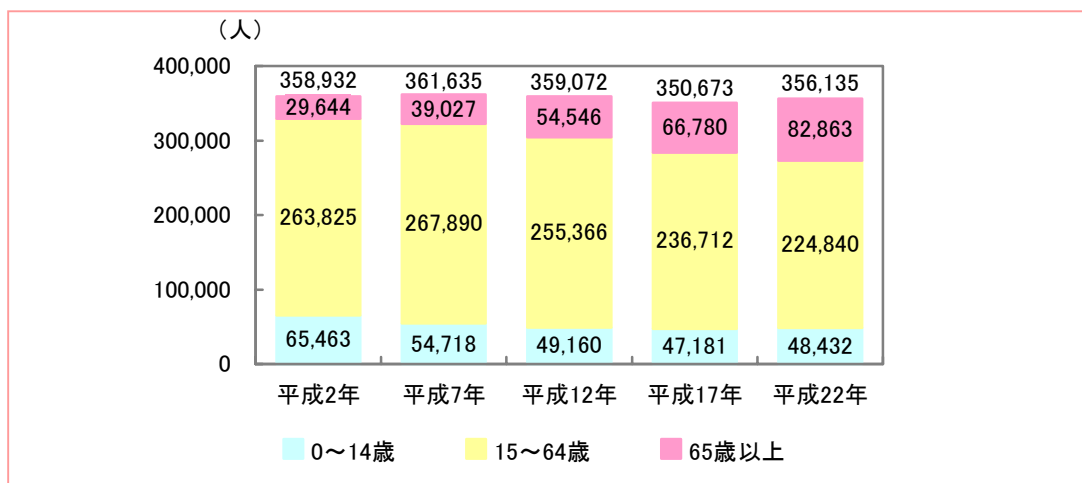


(2) 人口・世帯数

① 人口の推移

人口の推移をみると、平成7年から平成17年までは減少傾向にありましたが、その後は増加に転じ、平成22年には356,135人となっています。特に近年は65歳以上の老年人口が大きく増加しています。

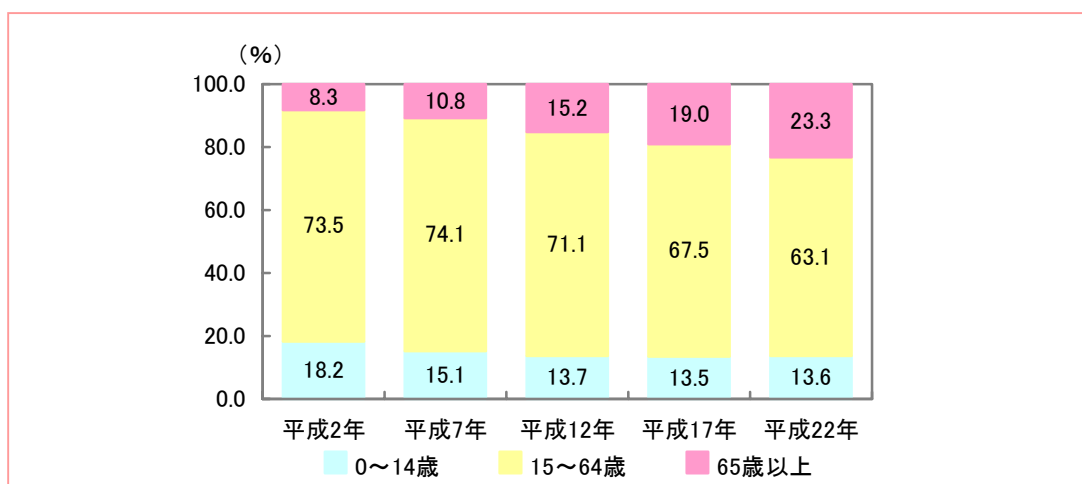
図 人口の推移



資料：国勢調査

年齢3区分別構成比の推移をみると、0～14歳の年少人口の総人口に占める割合は、平成12年以降は13.6%程度で推移している一方で、65歳以上の老年人口の総人口に占める割合は年々上昇しており、平成22年には23.3%と、急速に高齢化が進行しています。

図 年齢3区分別構成比の推移



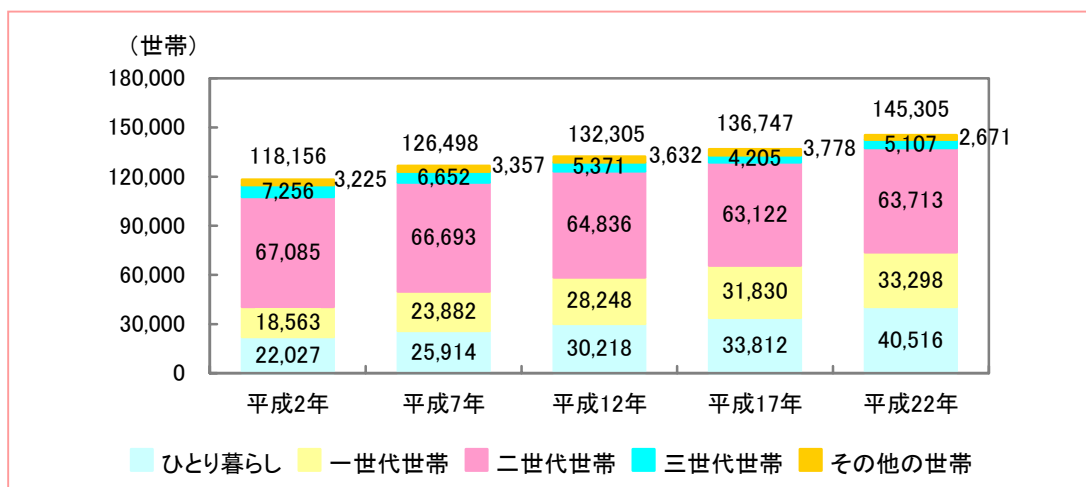
資料：国勢調査

② 世帯数の推移

世帯数の推移をみると、年々増加しており、平成22年には145,305世帯となっています。

平成22年のひとり暮らし世帯数は40,516世帯と平成2年に比べて約1.8倍となっています。また、平成22年の一世代世帯数は33,298世帯と平成2年に比べて約1.8倍となっています。

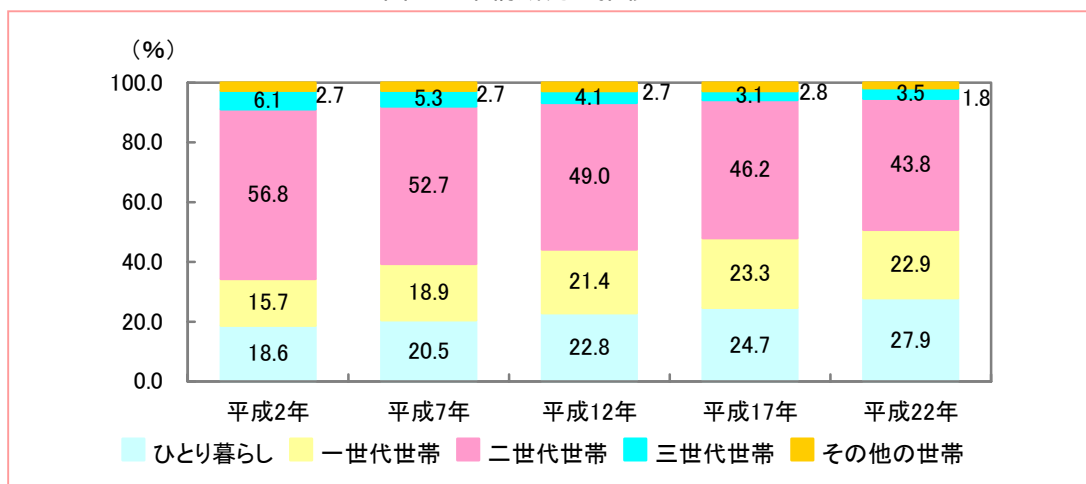
図 世帯数の推移



資料：国勢調査

世帯構成比の推移をみると、ひとり暮らし世帯の占める割合が上昇傾向にあります。

図 世帯構成比の推移



資料：国勢調査

2 食を取り巻く現状

(1) 食産業

① 農産物

高槻市の主な農産物は、下図のとおりです。

図 農産物位置図

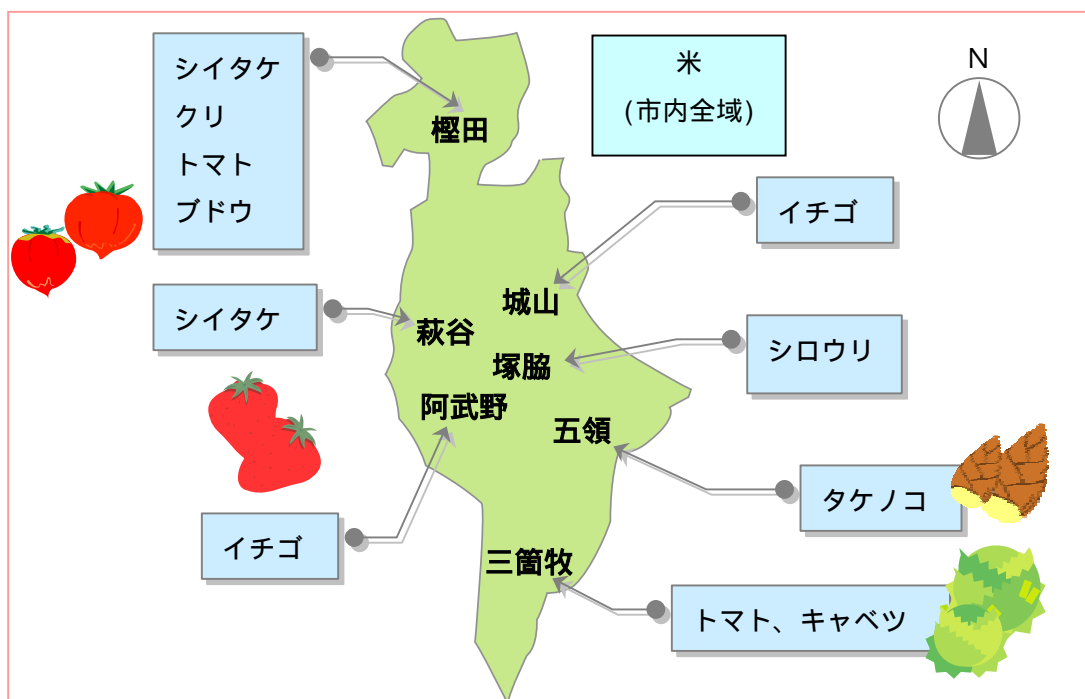


表 市内の農産物一覧表

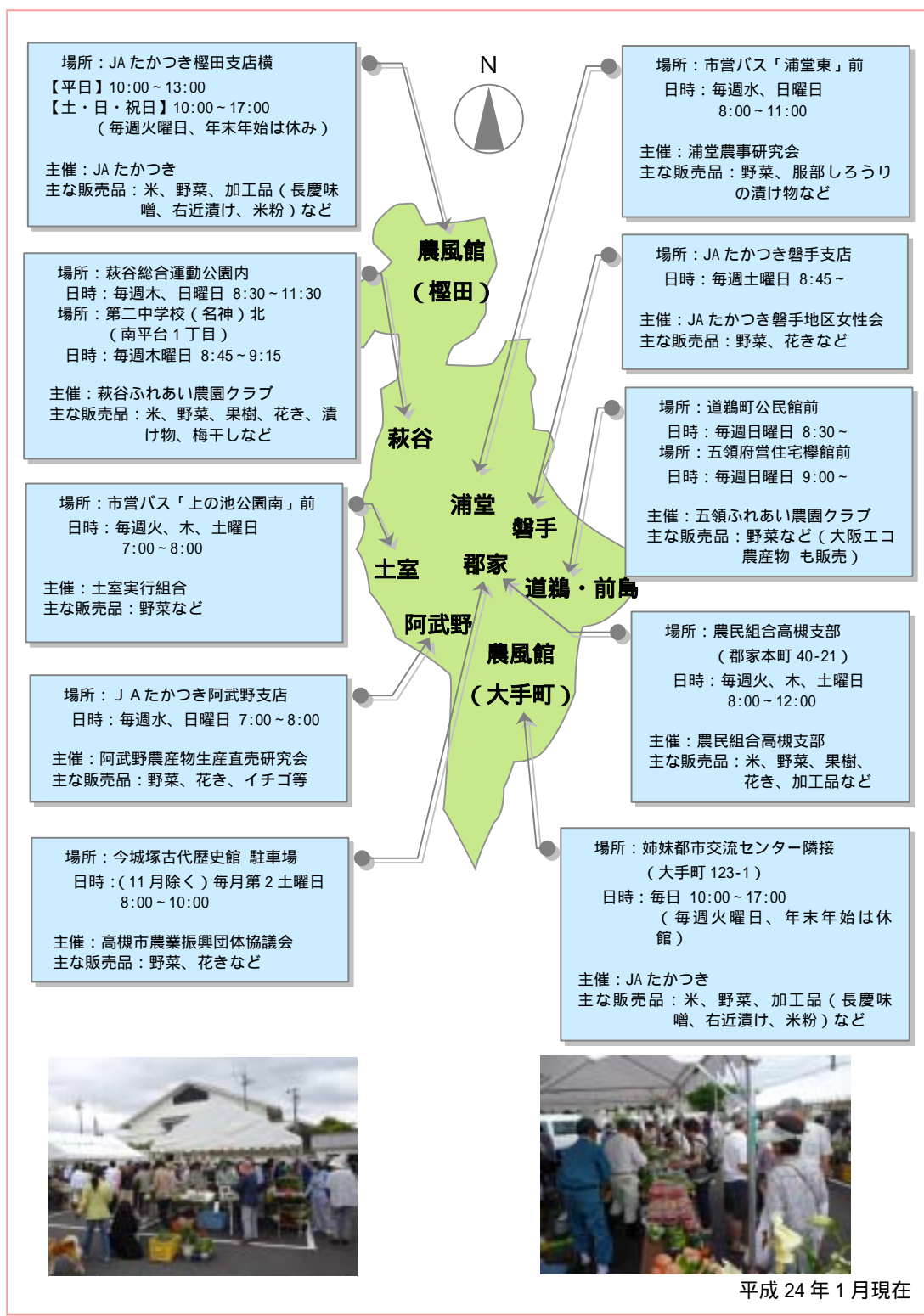
品名	主な栽培地区	状況
トマト	榎田地区 三箇牧地区	榎田地区では、中山間地の立地条件を活かした抑制露路栽培が行われています。三箇牧地区ではハウスによる促成栽培が盛んです。
シロウリ	清水地区(塚脇)	地元で栽培されたシロウリを加工して、服部の奈良漬として販売されています。
イチゴ	阿武野地区 清水地区(城山)	阿武野地区は古くからの産地で、現在も盛んに栽培が行われています。城山地区は「イチゴ狩り園」を開設しています。
キャベツ	三箇牧地区	古くから栽培され、周年栽培で隣接の卸売市場等へ出荷されています。
シイタケ	榎田地区 清水地区(萩谷)	施設栽培による周年栽培を実施しています。また、森林観光センターでは、シイタケ狩りが年中行われています。
タケノコ	五領地区	4月中旬の最盛期には卸売市場や近郊の市民向けに出荷されています。
クリ	榎田地区	「観光栗園」としてクリ拾いが行われ、市民に親しまれています。
ブドウ	榎田地区	榎田地区で新たに大粒ぶどうの栽培が始まり、今後「山霧ぶどう」の名で特産品として普及を図っていきます。
米	市内全域	高槻産の米(ヒノヒカリ・キヌヒカリ)が市内で生産され、農協等で販売されています。学校給食でも利用されています。

資料：農林課

② 朝市

高槻市内では、10か所の朝市・直売所（農風館）が開催されています。

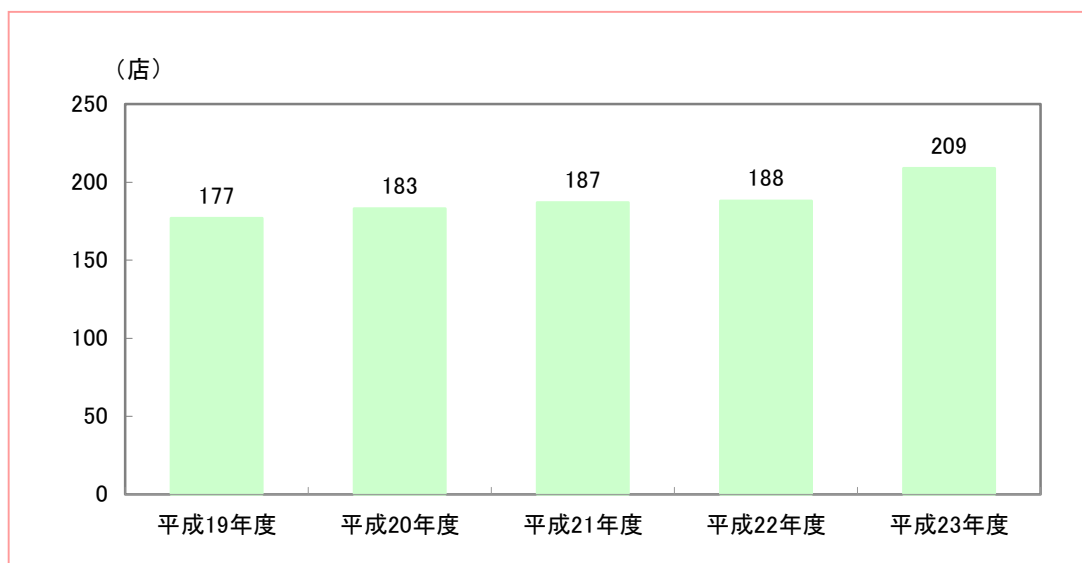
図 朝市マップ



③ 飲食店・小売店（うちのお店も健康づくり応援団の店^{*}）の推移

メニューの栄養成分表示やヘルシーメニューの提供など、「うちのお店も健康づくり応援団の店」に協力する飲食店や小売店の推移をみると、年々増加しています。平成23年度には209店になっており、平成19年度と比較して32店増加しています。

図 飲食店・小売店（うちのお店も健康づくり応援団の店）の推移



資料：総務医薬課

(2) 食の安全

食品衛生法に基づき、飲食店や食品工場など食品を扱う事業者への立入調査や衛生指導を行うとともに、食品製造施設やスーパーなどの食品販売施設で、食品の抜き取り検査を実施しています。監視件数は、平成23年度で2,998件となっており、平成20年度と比較して555件増加しています。また、食品等検査件数は、平成23年度で218検体となっています。

表 食品関係営業施設数・監視件数及び食品等検査件数（検体）の推移

項目	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
許可を要する営業施設数	4,625	4,625	4,534	4,654
監視件数（非許可施設を含む）	2,443	2,543	2,727	2,998
食品等検査件数（検体）	235	216	213	218

資料：保健衛生課

(3) 食文化

市の伝統行事と郷土料理

伝統的な行事や作法と結びついた食文化、地域の特色ある食文化等、伝統のある優れた食文化を継承していくことは重要です。

高槻市の伝統行事の中には、市指定の民俗文化財である、「磐手杜神社 神輿渡御神事※（馬祭）」「八阪神社 春季大祭※（大蛇祭）」や地域で開催されるお祭り等がありますが、お祭りの日には「さばずし」や「丁稚ようかん」など各地域に伝わるご馳走を作って会食するところもあり、心の触れ合いを深めるとともに、食を通じた地域の活性化にもつながっています。

また、市特産物を使った料理など自然の恵みを生かした郷土料理も伝わっています。

表 高槻市の郷土料理の一例

はすねもち	豆ともろこ煮
にじますの甘露煮	鮎寿司
くりの甘煮	れんげゼリー

資料：文化スポーツ振興課

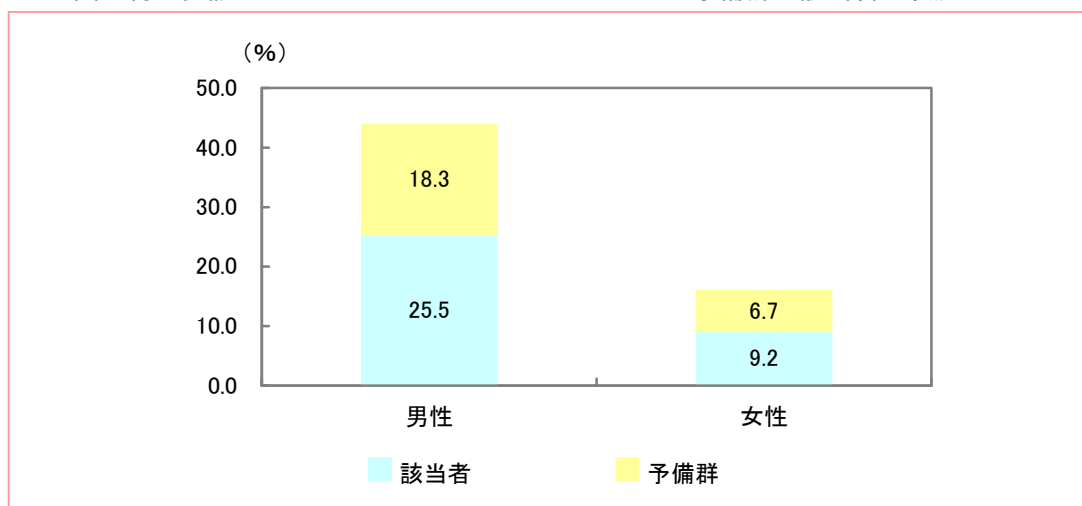
(4) 健康

① 特定健診におけるメタボリックシンドローム*の予備群・該当者の状況

市の特定健診の実施状況をみると、メタボリックシンドロームの該当者（注2）は男性25.5%、女性9.2%、予備群（注3）は男性18.3%、女性6.7%となっており、男性では、該当者、予備群合わせると43.8%に上ります。メタボリックシンドロームになると、糖尿病、高血圧症、脂質異常症（高脂血症）*の一手前の段階でも、これらが内臓脂肪型肥満をベースに複数重なることによって、動脈硬化を進行させ、ひいては心臓病や脳卒中といった命にかかわる病気を急速に招きます。

市では、メタボリックシンドローム該当者のうち、特定保健指導の対象となる人に保健指導を実施し、生活習慣の改善を支援することで、生活習慣病の発症予防に努めています。

図 特定健診におけるメタボリックシンドロームの予備群・該当者の状況



注2 該当者は、ウエスト周囲径男性85cm以上、女性90cm以上かつ、①、②、③の3項目のうち2つ以上に該当する者。（40～74歳）

①中性脂肪150mg/dl、または、HDL コレステロール40mg/dl 未満、もしくはコレステロールを下げる薬を服用

②収縮期血圧130mmHg 以上かつ/または拡張期血圧85mmHg 以上、もしくは血圧を下げる薬を服用

③空腹時血糖110mg/dl 以上または HbA1c5.5%以上、もしくはインスリン注射または血糖を下げる薬を服用

注3 予備群は、上記①、②、③の3項目のうち1つ該当する者。（40～74歳）

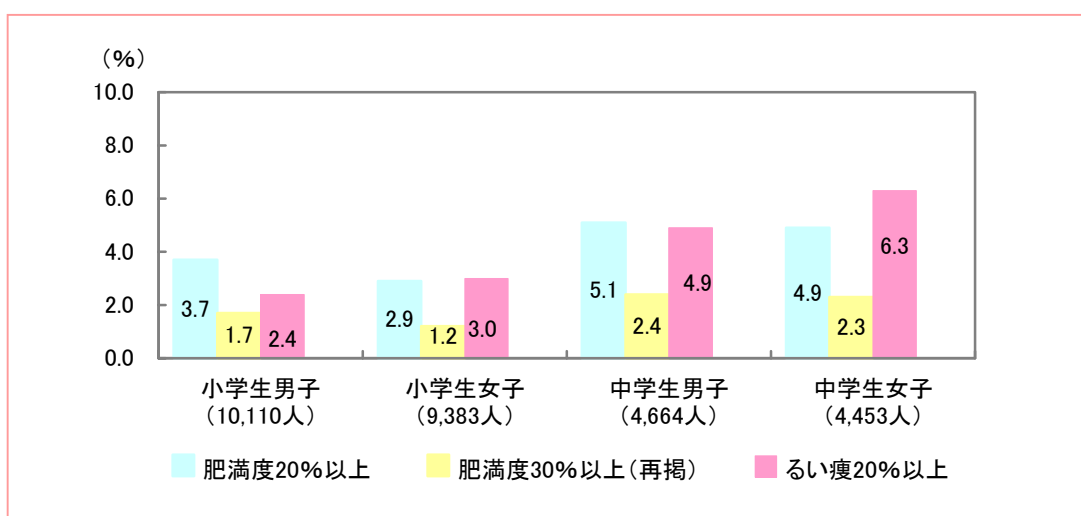
資料：健康づくり推進課

② 小学生・中学生の肥満、るい瘦の状況

小学生・中学生の平成23年度の肥満、るい瘦（注4）の割合をみると、小学生の肥満度20%以上では、女子よりも男子のほうが0.8%高くなっています。

るい瘦20%以上では、男子よりも女子のほうが高く、中学生の女子は男子よりも1.4%高くなっています。

図 小学生・中学生の肥満、るい瘦の状況（平成23年度）



注4 るい瘦（やせ症）とは、体型が通常の範囲を超えて痩せていること
算出方法

性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、下記の計算式において、肥満度が20%以上の者を肥満傾向児とし、肥満度が-20%以下の者を痩身傾向児としている

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$

資料：保健給食課

③ 主要死因別死亡者数

主要死因別死亡者数の推移をみると、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患ともに死亡者数が増加を続けています。特に悪性新生物、心疾患での死亡者数が平成7年に比べ、平成22年には約1.4倍となっています。

主要死因別死亡者割合の推移をみると、悪性新生物の占める割合が平成13年以降は低下している一方で、心疾患の占める割合は上昇傾向にあります。

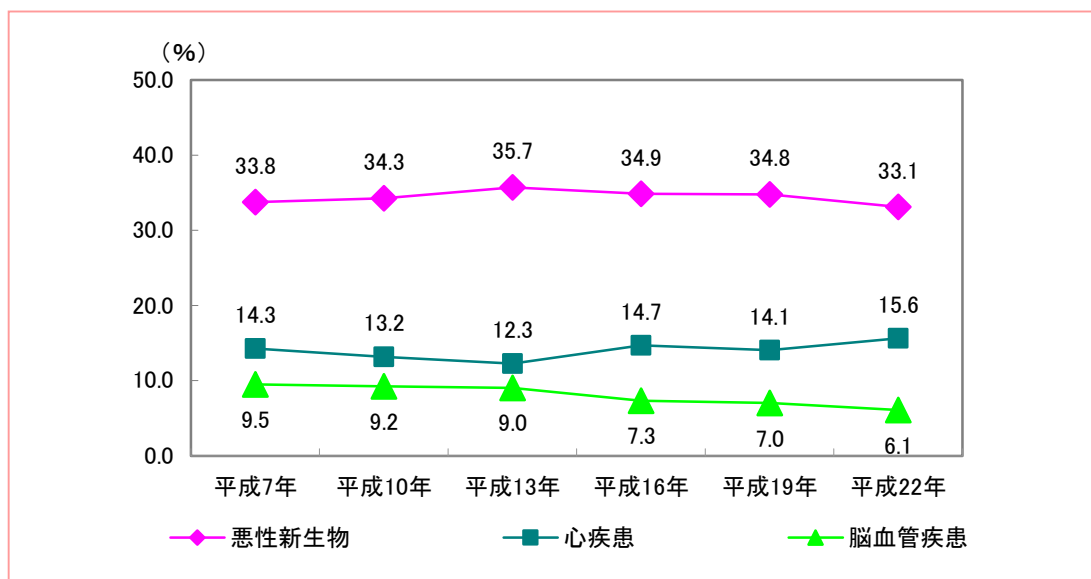
悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の三大疾病による死亡者数が、全体の50%以上を占めており、生活習慣病の予防・改善が課題となっています。

表 主要死因別死亡者数の推移

項目	平成7年	平成10年	平成13年	平成16年	平成19年	平成22年
総数	2,032	2,142	2,217	2,297	2,451	2,838
悪性新生物	686	734	792	801	852	940
心疾患	290	282	272	338	345	444
脳血管疾患	193	198	200	168	172	173

資料：高槻市統計書

図 主要死因別死亡者割合の推移



資料：高槻市統計書

3 数値目標の達成状況

高槻市では、平成20年11月に「高槻市食育推進計画」を策定し、13の数値目標を設定し、市民が健全な心身を培い、健康で豊かな生活をおくることができるよう、食育を総合的かつ計画的に推進してきました。その達成状況は以下のとおりです。

	項目	平成19年度 策定時	平成23年度 現状値	平成24年度 目標値	
1	食育に関心を持っている市民の割合	80.0%	72.9%	90.0%以上	
2	朝食欠食率	小中学生	4.4%	3.1%	0.0%
		高校生	5.2%	6.6%	0.0%
		一般成人	6.2%	6.2%	3.0%以下
3	学校給食の地場産農産物の使用割合（米・野菜）	22.0%	24.0%	26.0%以上	
4	「食事バランスガイド」等を参考に食生活を送っている市民割合	10.4%	8.8%	60.0%以上	
5	メタボリックシンドロームの認知度	80.7%	85.0%	90.0%以上	
6	食育推進のボランティアの増加	76人	77人	92人以上	
7	教育ファームの取組みの実施	31校	38校	41校	
8	食品の安全性の基礎知識を有する市民割合	61.3%	55.9%	70.0%以上	
9	「うちのお店も健康づくり応援団の店」協力店	177店	209店	250店以上	
10	朝食を家族と一緒に食べる市民割合	59.7%	58.2%	70.0%以上	
11	夕食を家族と一緒に食べる市民割合	75.3%	77.4%	80.0%以上	
12	地産地消の認知の割合	54.1%	70.9%	65.0%以上	
13	食に関する体験（農業・菜園など）の割合	32.9%	35.4%	50.0%以上	

4 食に関する市民意識調査

(1) 調査実施概要

① 実施時期

平成23年11月1日～12月28日

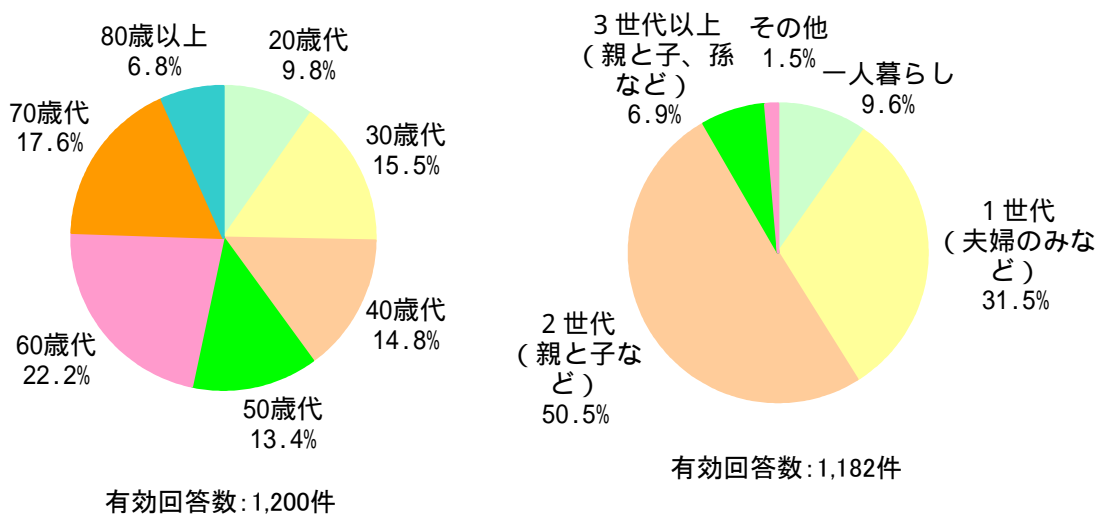
② 調査方法

調査の種類	調査方法
一般成人	郵送による配布・回収
小中学生	学校より直接配布・回収
高校生	学校より直接配布・回収
保護者	保育所、幼稚園、学校、施設より直接配布・回収

③ 回収状況

調査の種類	配布数	回収数	回収率
一般成人	2,000人	1,208人	60.4%
小中学生	1,188人	1,103人	92.8%
高校生	480人	477人	99.4%
保護者	1,660人	1,286人	77.5%

④ 調査対象者の基本属性（一般成人）

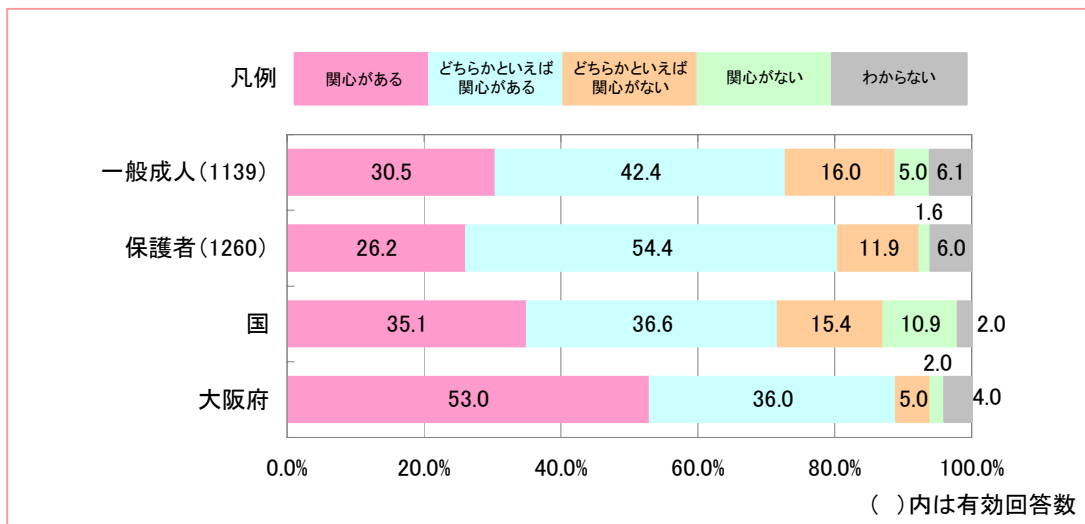


(2) 調査結果

① 食育に対する関心度

食育への関心の状況を見ると、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、一般成人で72.9%、保護者で80.6%となっています。一般成人、保護者ともに「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合が府よりも低くなっています。

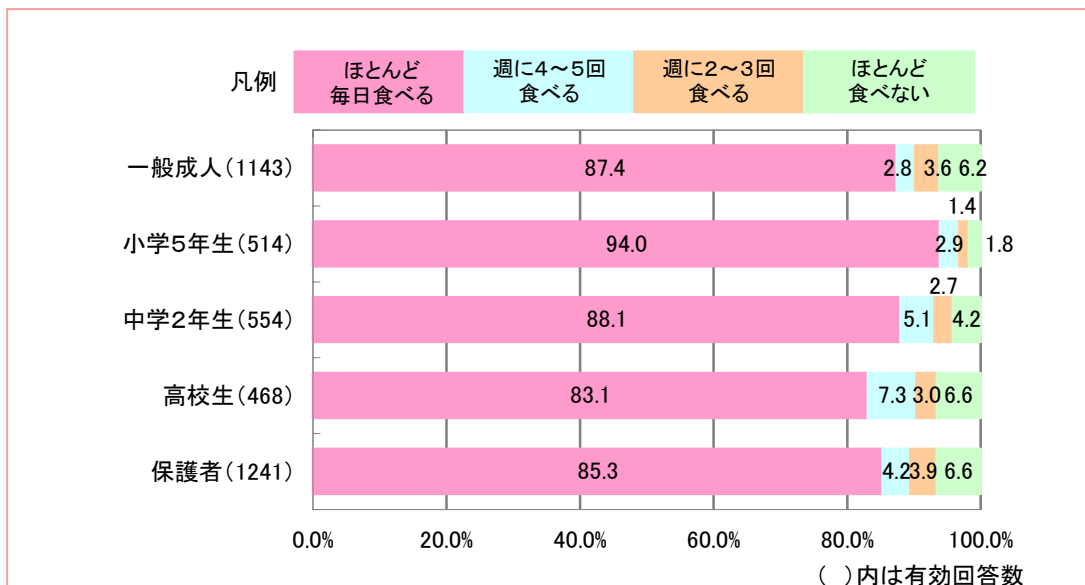
図 食育に対する関心度



② 朝食の欠食の状況

朝食の摂取状況を見ると、「ほとんど食べない」の割合は一般成人で6.2%、保護者で6.6%、小学生で1.8%、中学生で4.2%、高校生で6.6%となっています。

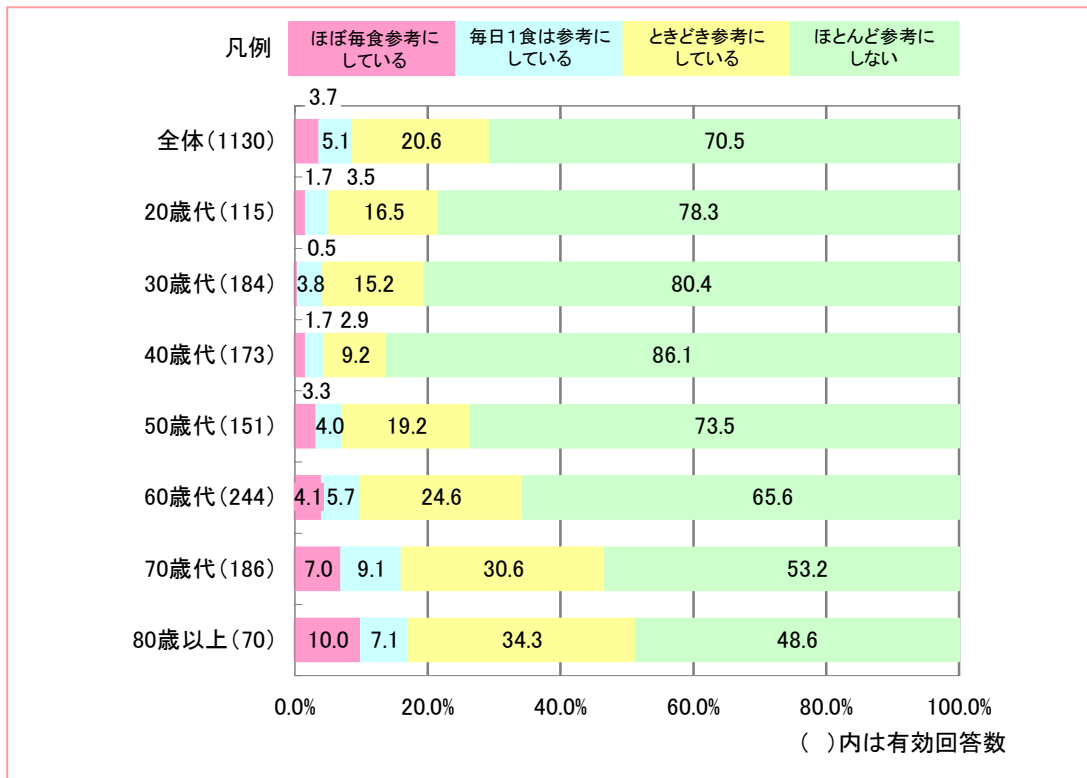
図 朝食の欠食の状況



③ 「食事バランスガイド」の参考度

「食事バランスガイド」の活用状況をみると、全体では「ほぼ毎食参考にしている」と「毎日1食は参考にしている」を合わせた割合が8.8%となっており、年代が高くなるにつれ、参考にしている人の割合が高くなる傾向にあります。

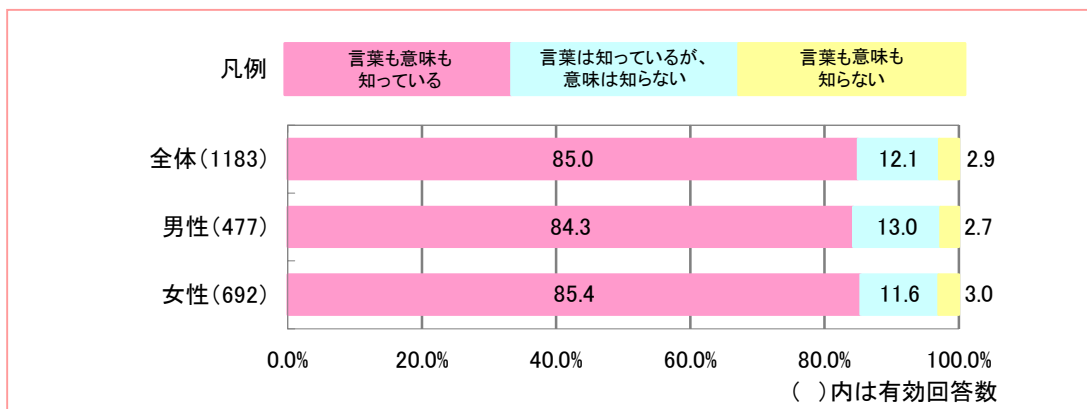
図 「食事バランスガイド」の参考度



④ メタボリックシンドロームの認知度

メタボリックシンドロームの認知状況をみると、全体では「言葉も意味も知っている」の割合が85.0%となっており、男女とも、同程度の割合となっています。

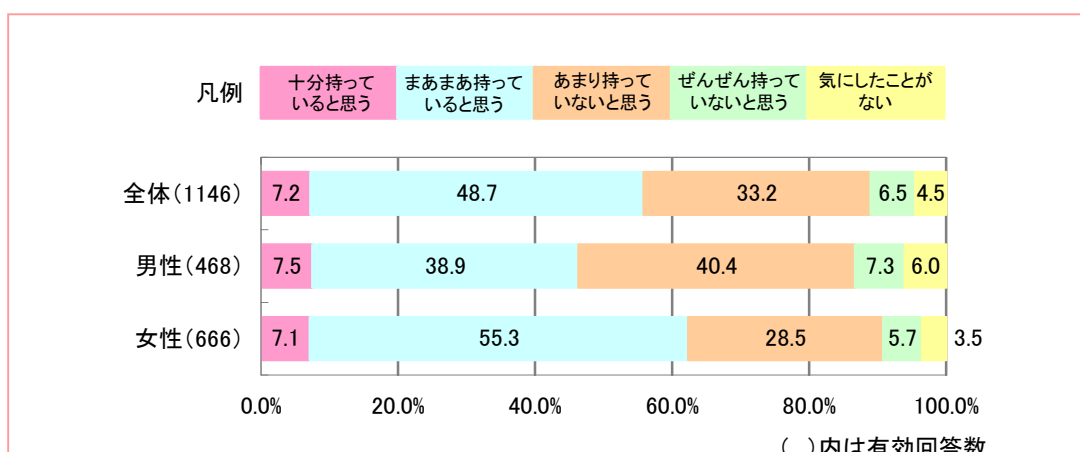
図 メタボリックシンドロームの認知度



⑤ 食の安全に関する知識の状況

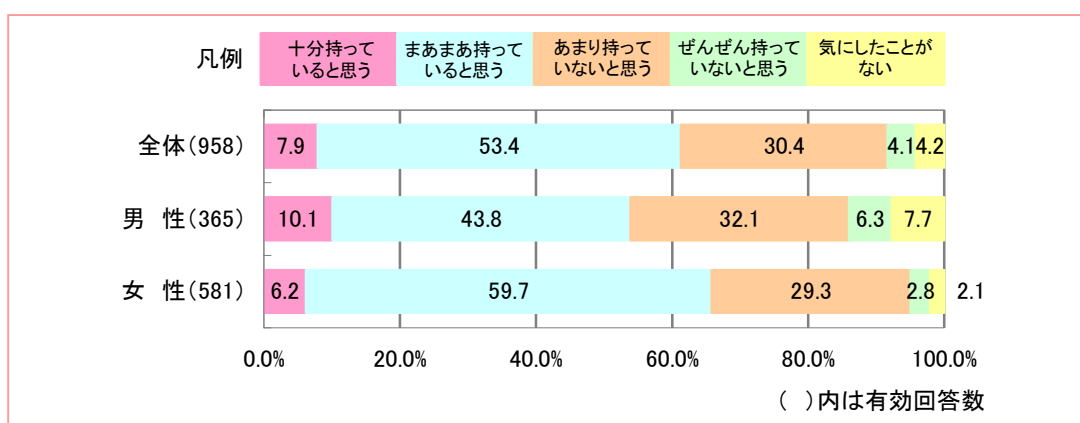
食の安全に関する知識の状況を見ると、全体では「十分持っていると思う」と「まあまあ持っていると思う」を合わせた割合は、55.9%となっています。女性では62.4%となっており、男性より16ポイント高くなっています。

図 食の安全に関する知識の状況（平成23年度調査）



平成19年度調査と比較すると、「十分持っていると思う」と「まあまあ持っていると思う」を合わせた割合は平成19年度の61.3%から55.9%と5.4ポイント低くなっています。特に男性では、平成19年度調査に比べ、平成23年度調査では7.5ポイント低くなっています。

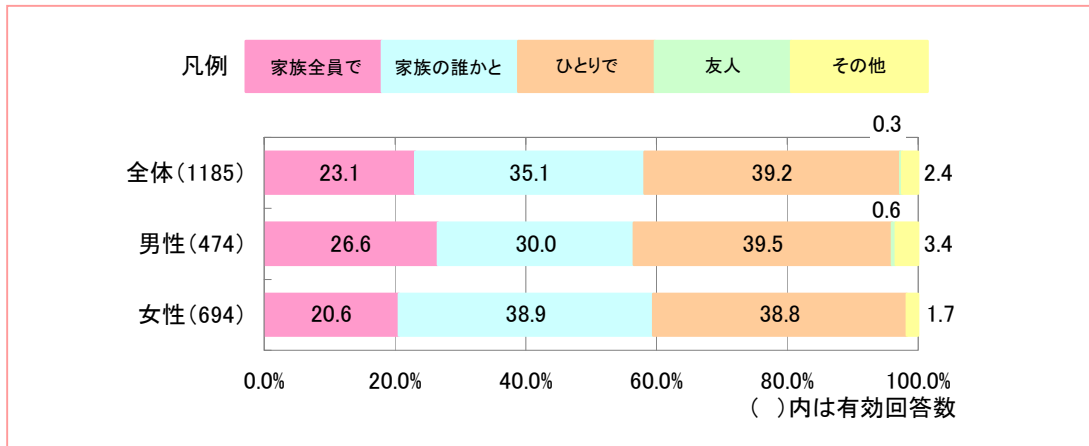
図 食の安全に関する知識の状況（平成19年度調査）



⑥ 朝食を一緒にとる家族の状況

朝食を一緒にとる家族の状況を見ると、全体では「家族全員で」と「家族の誰かと」を合わせた割合が58.2%となっており、「ひとりで」が39.2%になっています。女性では「家族の誰かと」が38.9%となっており、男性と比べて高くなっています。

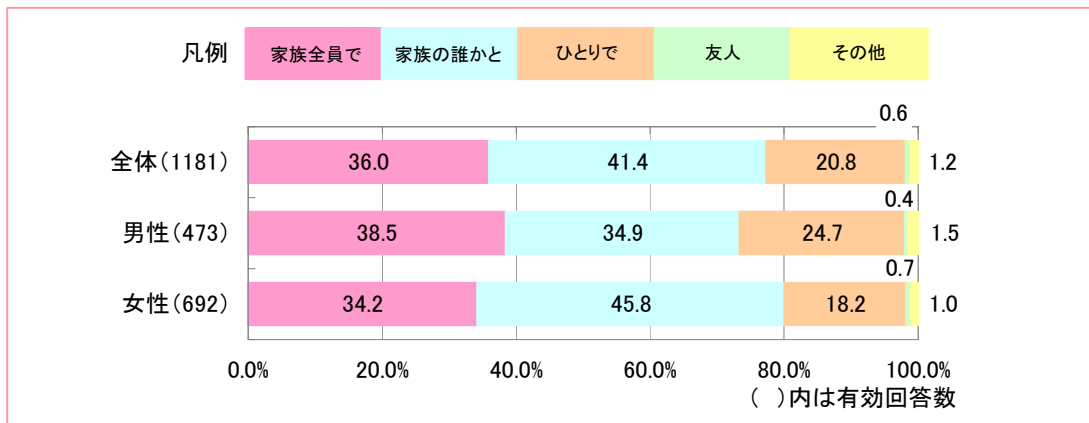
図 朝食を一緒にとる家族の状況



⑦ 夕食を一緒にとる家族の状況

夕食を一緒にとる家族の状況を見ると、全体では「家族全員で」と「家族の誰かと」を合わせた割合が77.4%となっており、「ひとりで」が20.8%になっています。女性では「家族の誰かと」が45.8%となっており、男性と比べて高くなっています。

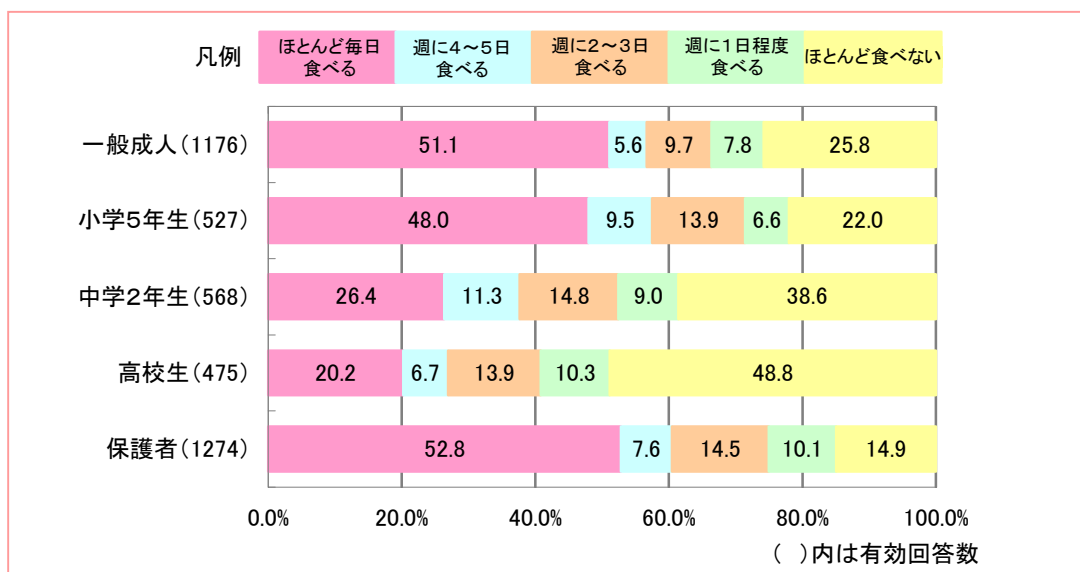
図 夕食を一緒にとる家族の状況



⑧ 家族との共食の頻度（朝食）

家族との共食の頻度（朝食）を見ると、一般成人では「ほとんど毎日食べる」の割合が51.1%となっています。子どもでは、学年が上がるにつれ、「ほとんど食べない」の割合が高くなる傾向にあり、中学2年生では38.6%、高校生では48.8%と高くなっています。

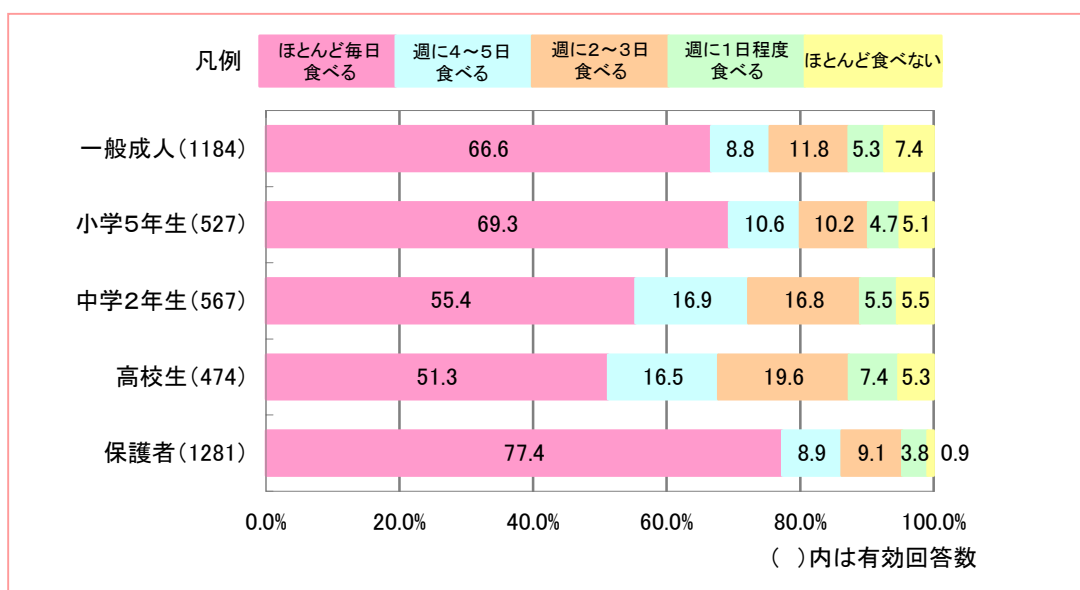
図 家族との共食の頻度（朝食）



⑨ 家族との共食の頻度（夕食）

家族との共食の頻度（夕食）を見ると、一般成人では「ほとんど毎日食べる」の割合が66.6%となっています。子どもでは、学年が上がるにつれ、「週に2~3日食べる」の割合が高くなる傾向にあり、中学2年生では16.8%、高校生では19.6%と高くなっています。

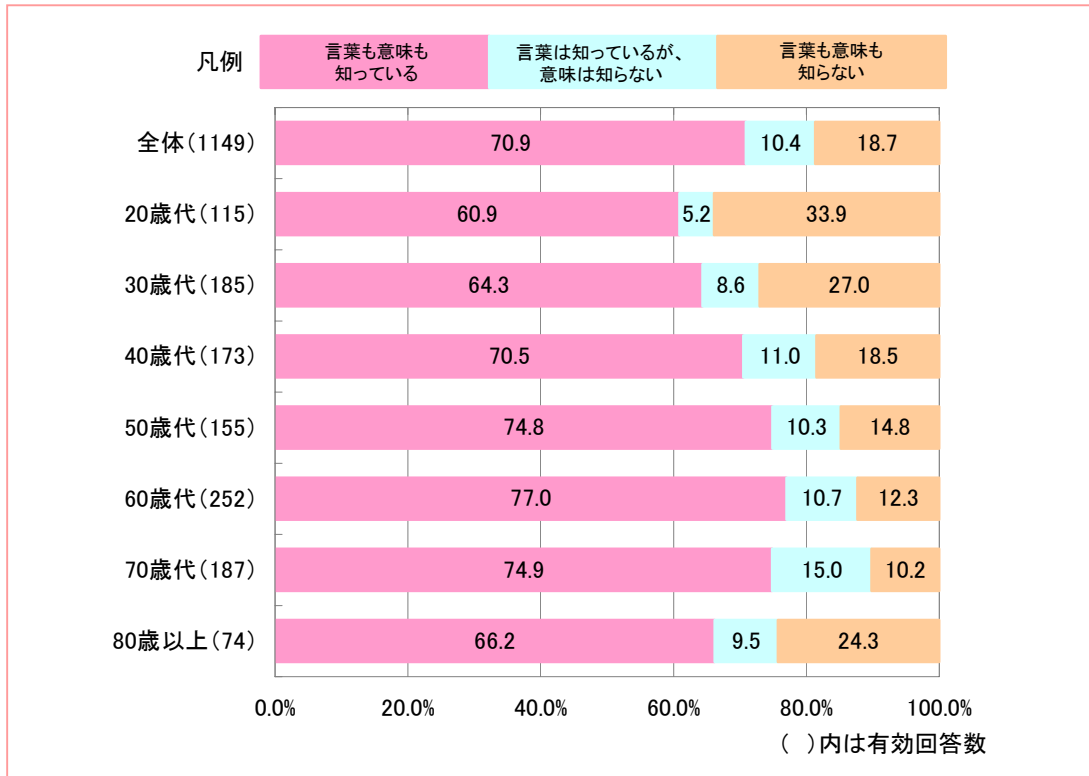
図 家族との共食の頻度（夕食）



⑩ 地産地消の周知度

地産地消の周知度を見ると、全体では「言葉も意味も知っている」は70.9%になっており、年代が上がるにつれ、「言葉も意味も知っている」の割合が高くなる傾向にあります。

図 地産地消の周知度

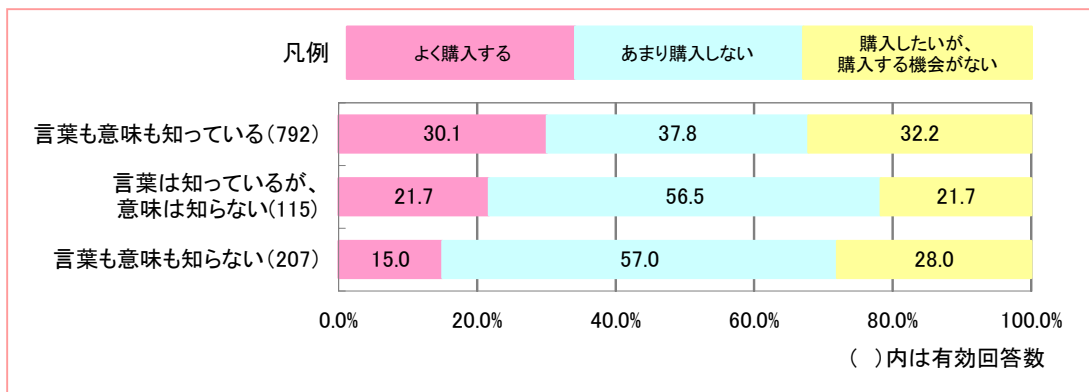


⑪ 地元産農産物の購入状況

地元産農産物の購入状況を地産地消の周知度別に見ると、地産地消の言葉も意味も知っている人ほど、「よく購入する」の割合が高くなる傾向にあります。

一方で、地産地消の言葉も意味も知っている人において、「購入したいが、購入する機会がない」の割合が32.2%と高くなっています。

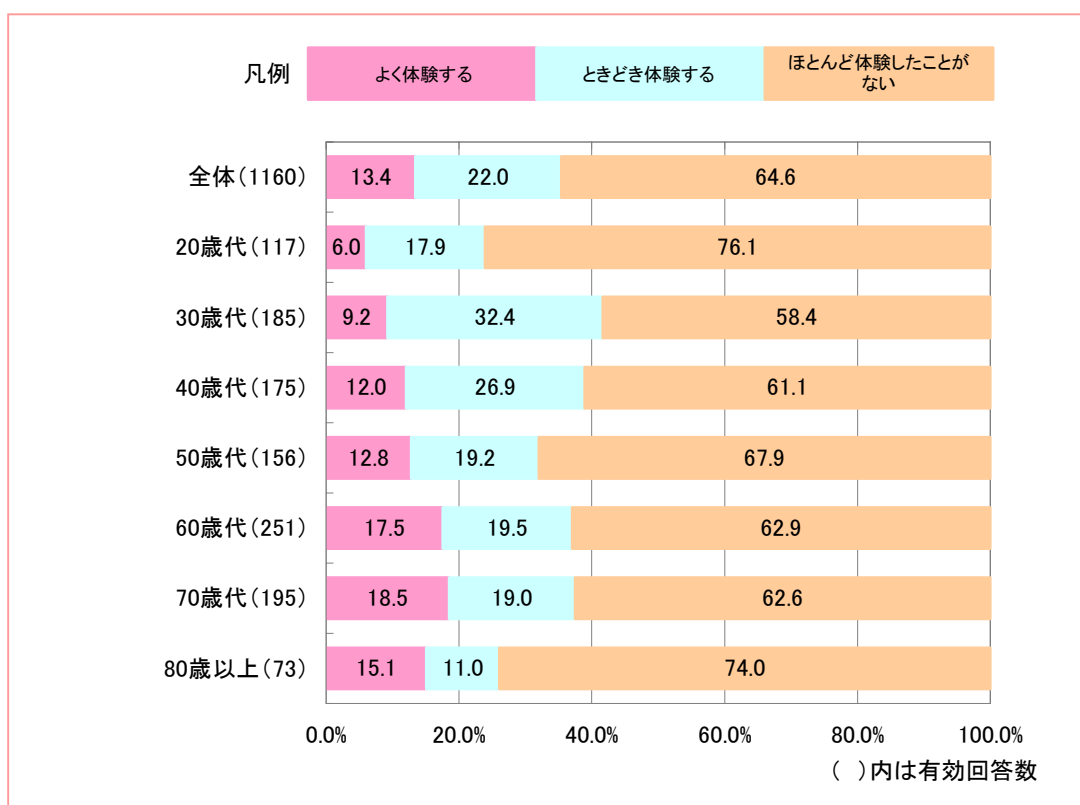
図 地元産農産物の購入状況



⑫ 農業体験等の実践状況

農業体験等の実践状況を見ると、全体では「よく体験する」、「ときどき体験する」を合わせた割合が35.4%となっており、「よく体験する」は年代が上がるにつれ割合が高くなる傾向にあります。

図 農業体験等の実践状況



5 現状と課題のまとめ

これまでの事業や取組み、アンケート調査より市民の食育に関する現状を整理し、高槻市の主要課題をまとめると、次のとおりとなります。

基本目標	計画策定に向けての課題
(1) 豊かな心を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・マナー、コミュニケーション等家庭教育力の低下 ・栄養教諭の配置の促進 ・企業や関係団体との連携強化 ・食育に関するボランティア活動の促進と人材育成 ・地域におけるふれあいの場の不足 小中高生世代における孤食の増加・共食の推進
(2) 食の安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な食品の提供 ・食の安全性に対する信頼の低下 ・食の安全性に関する正しい知識の不足 ・情報の氾濫 ・食の安全性の周知・啓発の推進 高次な食品安全問題への対応
(3) 食文化を守り、育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・米の消費の低下・小麦食品の増加 ・食料自給率の低下 ・食文化の衰退 ・地元産農産物の安定供給の確保 ・後継者不足 ・食に対する感謝の念の希薄化 ・環境への負荷の増大 ・地産地消の推進 地元産農産物の購入場所、購入方法の周知
(4) 健康な体を保つ	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な栄養の量やバランス等に関する知識の不足 ・生活習慣病（代謝異常・消化器系内臓疾患・肥満等）の増加 ・子どもの肥満 ・やせへの願望 ・味覚の形成不足 ・「うちのお店も健康づくり応援団の店」協力店の充実 ・健康に対する知識の低下 ・食に対する意識の低下 ・生活習慣・食習慣の乱れ ・朝食の欠食 ・慢性的な運動不足 ・歯の健康の維持の低下（虫歯の増加） 高校生・大学生・一般成人世代（企業を通じてのアプローチ）への啓発
(5) 食の情報発信と連携の推進	<p>市ホームページ、広報紙、その他啓発冊子等の媒体による情報提供の更なる促進</p>

は新規課題